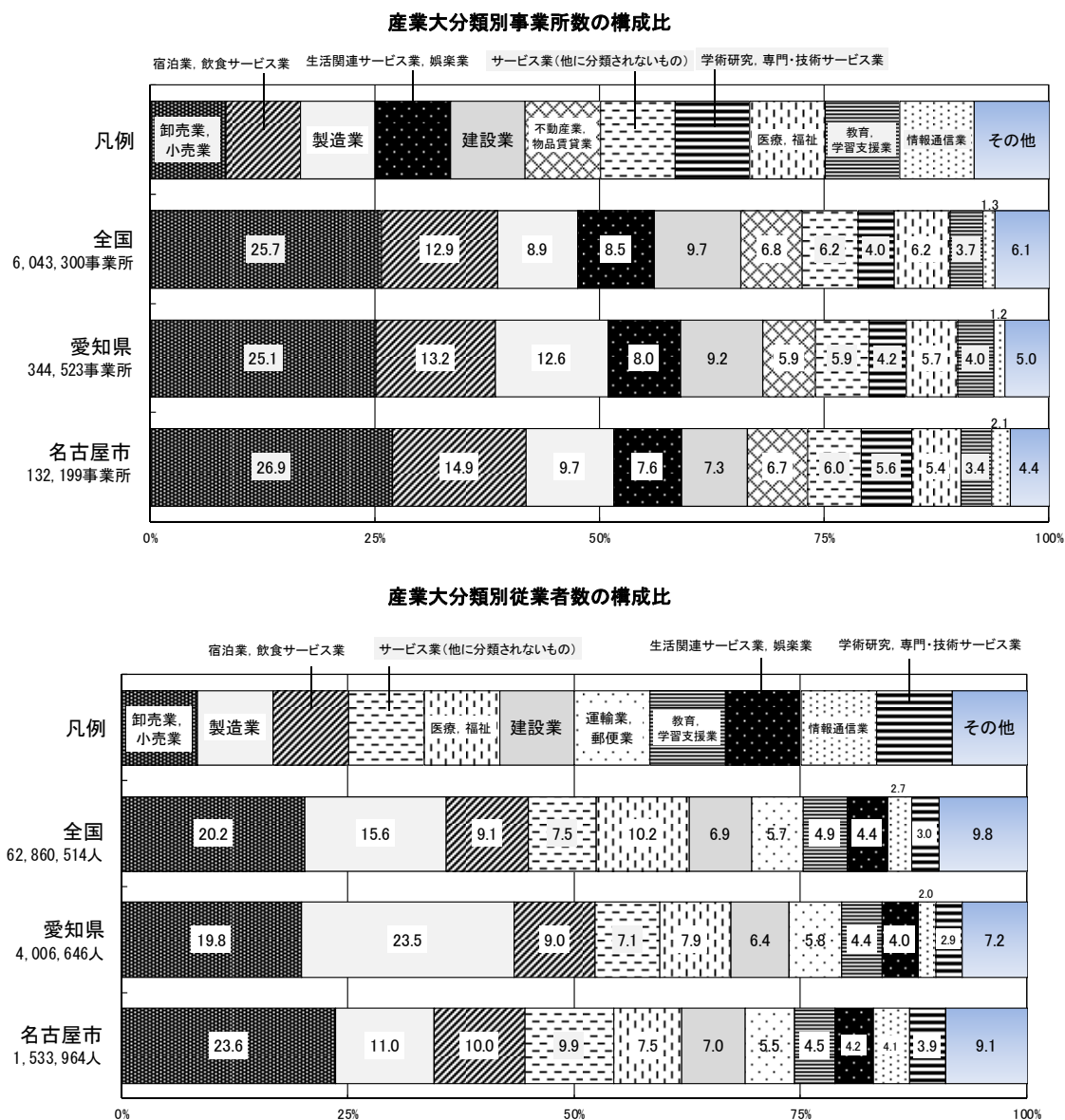


グラフで見る名古屋

～経済センサス-基礎調査より～

1 本市の事業所数は132,199事業所、従業者数は1,533,964人となっています。



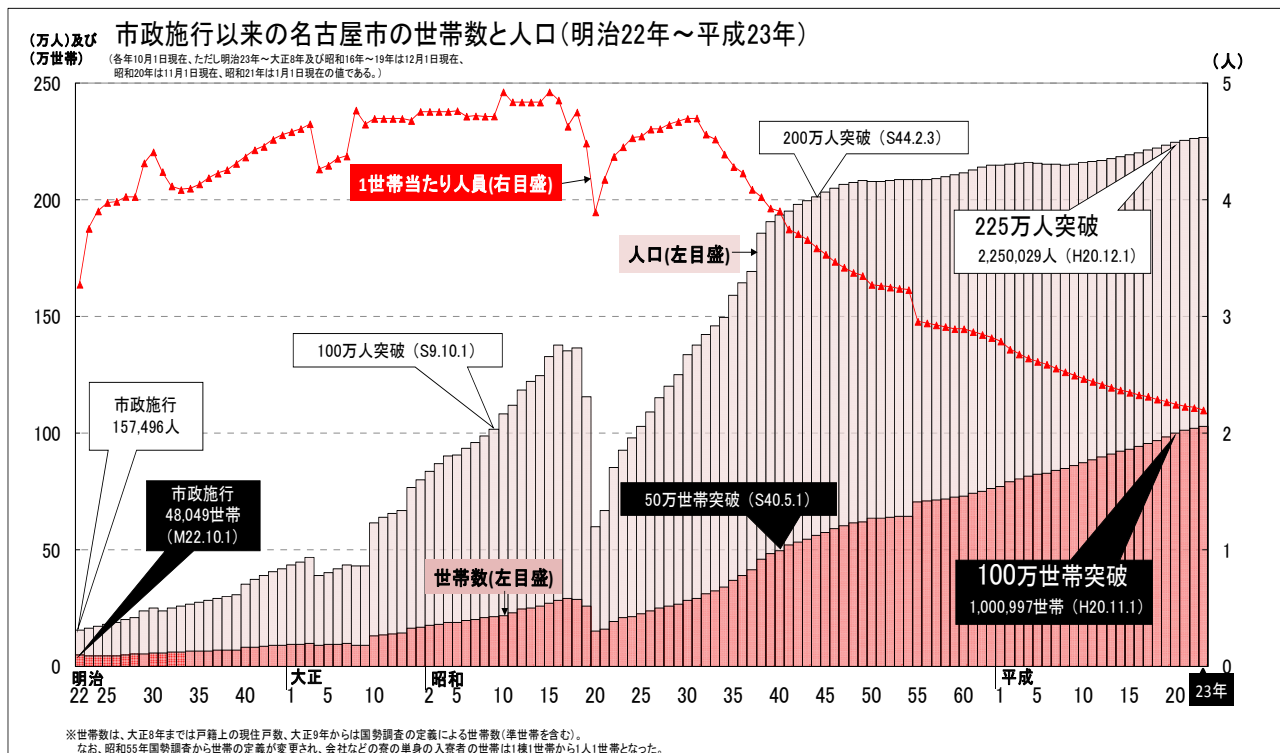
経済センサス-基礎調査は、平成21年に第1回目を実施しました。平成21年7月1日現在、本市に所在する事業所数は132,199事業所、従業者数は1,533,964人となっており、事業所数が全国に占める割合は2.2%、従業者数が全国に占める割合は2.4%となっています。

全国及び愛知県の産業大分類別構成比と比較すると、事業所数、従業者数ともに「卸売業、小売業」、「宿泊業、飲食サービス業」の割合が高くなっています。

また、事業所数では「製造業」の割合が全国より高いのに対し、従業者数では低くなっており、本市の製造業は全国に比べ、従業者規模の小さい事業所の割合が高いという傾向を示しています。

～国勢調査等より～

2-1 名古屋市の人口は減少への転換期を迎えつつあります。



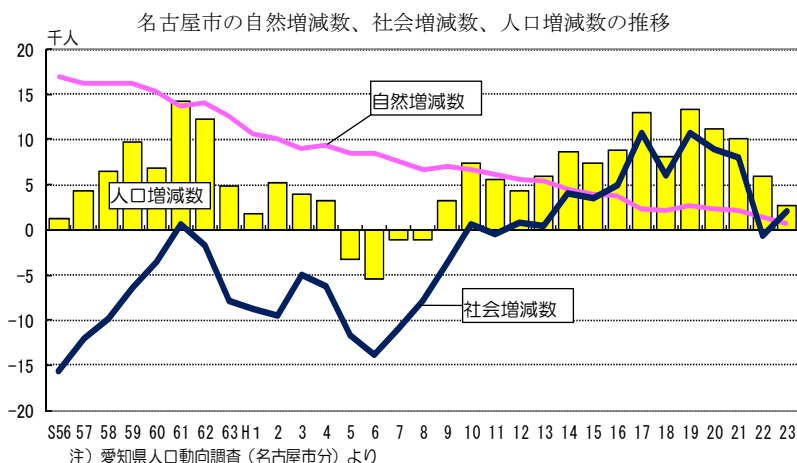
本市の人口及び世帯数は、明治22年の市政施行以降、周辺市町村の編入などにより徐々に増加し、**昭和9年には人口が100万人を突破**しました。戦前のピーク時で人口は市政施行時の約9倍、世帯数も約6倍となりましたが、大戦後の昭和20年には、人口、世帯数ともピーク時の約半数となりました。

戦後は**第一次ベビーブーム(昭和22～24年)**や周辺市町村の編入により、人口・世帯数とも急速に増加し、ほぼ現在の市域となった**昭和40年には世帯数が50万世帯を突破**し、その4年後には人口が200万人を突破しました。

第二次ベビーブーム(昭和46～49年)を過ぎた頃から、出生数の低下や、近郊住宅地への転出の動きにより、人口の増加のペースは徐々に鈍化し、平成5年からは4年連続で人口が減少しました。しかし、平成9年を境に再び市内への転入者が増加し始め、**平成20年には人口は225万人を、世帯数は100万世帯を突破**しました。

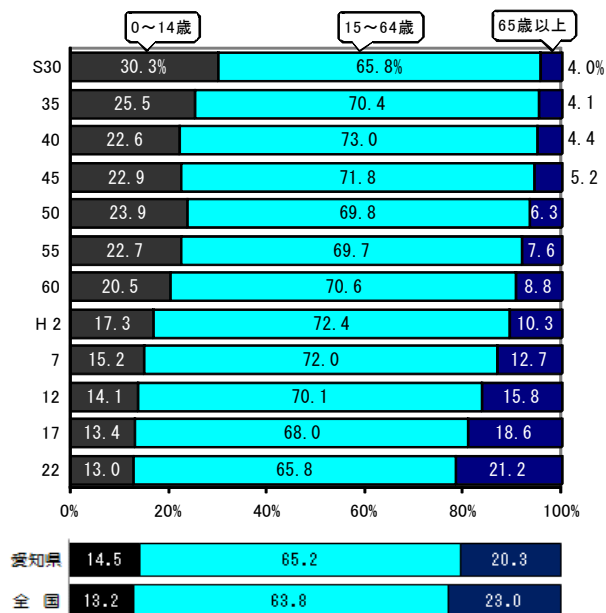
平成22年の国勢調査によれば、平成22年10月1日現在の人口は2,263,894人、世帯数は1,021,227世帯と、いずれも過去最高を更新しました。

しかし、近年は自然増減数、社会増減数の減少が見られ、本市の人口は転換期を迎えつつあると思われます。

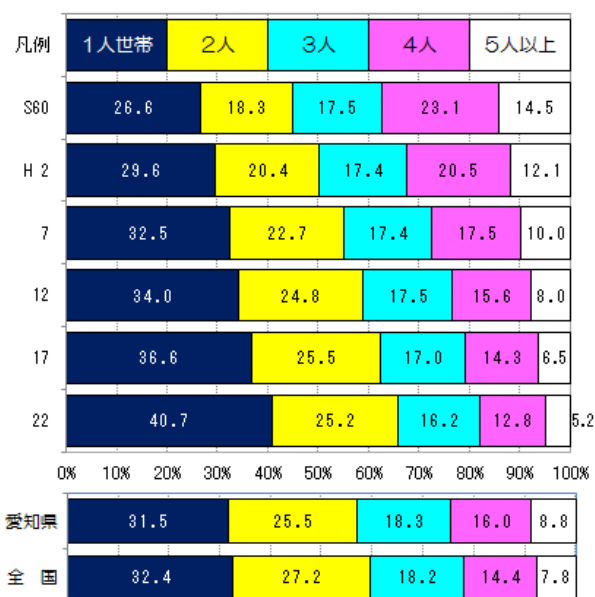


2-2 少子・高齢化が進み、1人世帯が増加しています。

年齢3区分別人口構成比の推移（名古屋市）



一般世帯の世帯人員別構成比の推移（名古屋市）



注) 国勢調査結果より

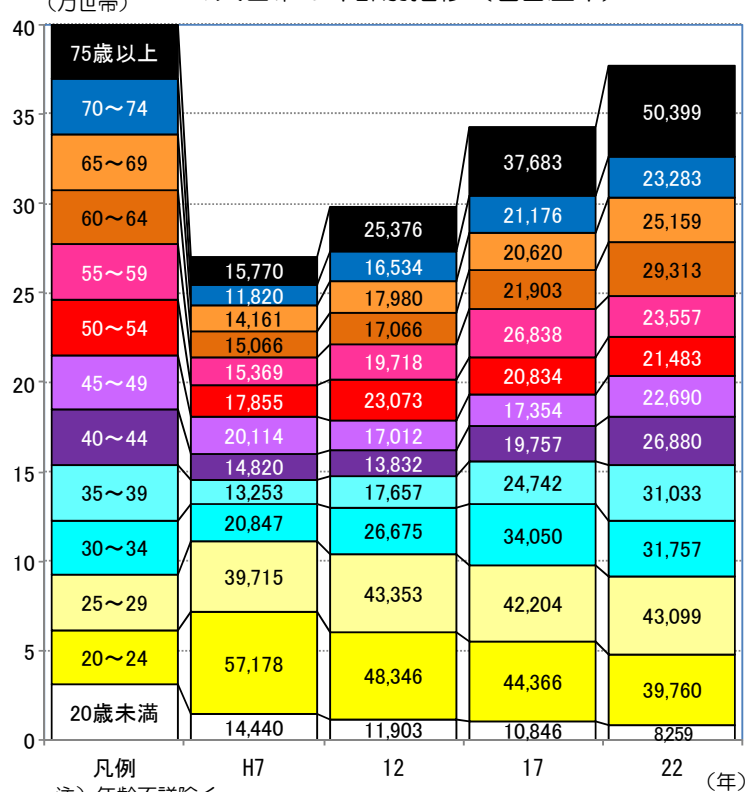
本市の年齢3区分別人口構成比の推移を見ると、0～14歳までの**年少人口比率**は、昭和30年当時は30%を超えていましたが、平成2年には20%を下回り、平成22年には13.0%となりました。一方、65歳以上の**老年人口比率**は一貫して上昇し、昭和30年当時は4%に過ぎませんでしたが、平成2年には10%を上回り、平成22年には21.2%と、20%を超えるところまでできました。

15～64歳までの**生産年齢人口比率**は、昭和35年に70%を超えて以降、70%前後を推移していましたが、平成22年は、昭和30年と同じ65.8%となりました。

さらに、本市の一般世帯の世帯人員別構成比の推移を見ると、**1人世帯が年々増加し、平成22年には、全国では3割を初めて超えたことが話題となりましたが、本市は初めて4割を超えました。**

なお、1人世帯の年齢別推移を見ると、20歳代が最も多いものの、特に20歳代前半が大幅に減少しており、一方、75歳以上は顕著に増えています。

1人世帯の年齢別推移（名古屋市）



注) 年齢不詳除く